

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	逆相タンパク質アレイを用いた悪性リンパ腫の新規診断法の開発
	研究目的	逆相タンパク質アレイ (Reverse Phase Protein Array: RPPA) とは蛋白質の発現量を調べる解析法で、血清や癌組織片などから抽出した多数の検体を用いて複数の蛋白質の発現を定量的に解析することができます。本研究は、この解析技術を用いた悪性リンパ腫の新規診断法の開発を目的としています。RPPA を用いた診断法を確立することができれば、診断の精度を高め、診断に難渋することの多い悪性リンパ腫の診療に大きく貢献することが期待されます。またこの診断法の確立に成功すれば、軟部腫瘍などの他の領域の診断にも応用される可能性もあります。
	研究期間	2016年6月23日から2019年8月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	病理診断科 医師 鈴木理樹
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	病理診断科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし